

建築物石綿含有建材調査者講習 修了試験問題例（2023年度）

試験形式：問題は40問 4択マークシート式

合格基準：問題40問のうち、60%以上正解すること

※出題は、当時の法的根拠・テキストに基づいており、法改正等により一部が現在の判断と異なる場合があります。

【例題1】 次の記述について、誤っているものはどれか

1. 石綿による良性石綿胸水はびまん性胸膜肥厚の後遺症として生ずることが多い。
2. 石綿肺は大量に石綿を吸入することで発症し、肺がんや中皮腫などの合併症にも注意が必要である。
3. 石綿含有建材は飛散性の観点から、石綿含有吹付け材をレベル1、石綿含有耐火被覆材や断熱材、保温材はレベル2、石綿含有成形板はレベル3に分類される。
4. 石綿ばく露と喫煙の両方による肺がんのリスク（危険率）は、非喫煙者と比較し大きく上回る。

【解答】1 びまん性胸膜肥厚が良性石綿胸水の後遺症として生ずることが多い

【例題2】 次の記述について、誤っているものはどれか

1. 防火地域・準防火地域、法第22条区域に建築物を建てる場合には、「延焼のおそれのある部分」に、十分な性能をもたせる必要がある。
2. 「延焼のおそれのある部分」とは、隣地境界線および道路の境界線よりそれぞれ1階にあっては3m以下、2階以上あっては5m以下の距離にある建物部分をいう。
3. 耐火構造には、告示に定める仕様を用いる場合と、国土交通大臣の認定を受けた仕様がある。
4. 建築図面に記載された柱やはりの耐火構造の指定番号や認定番号を調べることで、吹付け石綿であることが特定できることがある。

【解答】2 道路の境界線ではなく、道路の中心線からの距離である

【例題3】 目視調査に関する次の記述について、誤っているものはどれか

1. 調査の動線については立ち合い者と事前に協議しておく必要がある。調査対象に則した適切な動線計画は、労力と時間の節約につながる。
2. 全調査は迅速性が必要であり、同一パターンの部屋が続く場合、図面調査や外観調査で各部屋の差異が確認されないときは、同一とみなし調査対象から割愛してよい
3. 調査の正確性は最も重要であり、天井なら全スパンの真下まで行って見上げたり、壁の場合であれば全ての面に最接近するなど丁寧な調査が必要である。
4. 案内人などが粉じんばく露防止の保護具を装着していない状況下では、作業時は退室を願うなど第三者ばく露を防ぐための安全策を講じたい。

【解答】2 同一パターンでも請負業者が異なる等の理由で使用材料が異なる場合があるため割愛してはならない。

【例題4】 事前調査結果報告書に関する次の記述について、誤っているものはどれか

1. 分析試料の採取場所は複数の部屋にまたがることもあり得る。
2. 採取建物名は、調査対象に複数棟があれば配置図等で確認し、記載がない場合は、調査依頼者に分かりやすく記載する。
3. 分析試料一覧表には、資料サンプルの保存方法を必ず記載する必要がある。
4. 分析試料一覧表には試料採取日、採取指示者の姓名及び資格を記載する必要がある。

【解答】3 資料サンプルの保存方法は記載する必要はない